

研究区分	教員特別研究推進 独創・先進的研究
------	-------------------

研究テーマ	難病療養者を対象とした災害支援における訪問看護の有効性に関する分析的観察研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理
	研究分担者	所属・職名	看護学部・准教授	氏名	堀 芽久美
		所属・職名	城西クリニック・副院長	氏名	溝口 功一
		所属・職名	経営情報学部・准教授	氏名	木村 綾
		所属・職名	豊橋創造大学看護学部・教授	氏名	今福 恵子
		所属・職名	看護学部・助教	氏名	山本 祐子
		所属・職名	看護学研究科博士後期課程1年	氏名	田中 貴大
	発 表 者	所属・職名	看護学部・教授	氏名	富安 眞理

講演題目
難病療養者を対象とした災害支援における訪問看護の有効性に関する分析的観察研究
研究の目的、成果及び今後の展望
【目的】医療依存の高い避難行動要支援の対象者である難病療養者を対象とした災害支援における訪問看護の有効性の評価を行うことを目的とする。難病は原因不明で治療法未確立の希少性の疾病であり、そのケアや対応が「知られていない」ことが大きな課題であり、各地における支援ネットワークの形成が長年の課題となってきた。近年は災害時の支援が大きな課題となっており、平時からのネットワーク形成が喫緊の課題である。そこで、本年度は、静岡県内の訪問看護ステーションがカバーする範囲及び利用者が到達できる訪問看護ステーションの特定に地理情報システム（geographic information system；GIS）を用いて、需要供給バランスを測定した。こうしたGISを活用した訪問看護ステーション間連携の可視化によって訪問看護の有効性の評価を試みることは、難病療養者中心の災害支援ネットワーク形成に貢献できると考える。 【成果】本研究成果は、研究協力者である堀芽久美が成果を公表した¹⁾²⁾。静岡県内において、都市部でも未だ訪問看護需要に対する供給が不足しており、事業所の増加やスタッフの確保は大きな課題といえる。なお、研究費はGIS解析に必要な研究環境整備に活用した。 【今後の展望】次年度は、患者数の多い潰瘍性大腸炎、パーキンソン病、全身性エリテマトーデス、クローン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症を対象とし、静岡市保健所の保有する難病療養者のデータを活用し、GISによる災害発生時における医療・看護・介護に関連するケアサービス利用の需要供給の予測を行う。 1)堀芽久美. 市民公開講座 神経難病療養者と家族を取り残さない防災・減災ネットワークの形成, 日本難病看護学会誌, 29-2, 54, 2024. 2)堀芽久美. 地理情報システムによる医療情報・ネットワークの可視化, 日本難病看護学会誌, 29-3, 37-40, 2024.